

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

科目名 日本語文章表現

（ 2023 年 12 月 31 日作成）

氏名 入江 さやか

No.1

内容 （〇〇する 力がある） 事実、概念、 手続き、メタ認知	想起する	理解する	応用する	分析する	評価する	創造する
	（再認、再生）	解釈、例示、分類、 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織 結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画 できる、汎化
（例） 1. ことばと表現を知ろう			・文脈に応じた適切な言葉を使用することができる。	・与えられた文脈において、同音異義語と同訓異義語を識別し、その違いを明確に分析することができる。	・慣用表現、四字熟語、故事成語を含む文章を批判的に評価することができる。	・自分の文章において、慣用表現、四字熟語、故事成語を含む表現を創造的、かつ適切に使用し、意図した効果を生み出すことができる。
2. 文の構造		・様々な文の構造（主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係）を識別し、その組み立てが文意にどのように影		・与えられた文章を読み、文の構造を詳細に分析することができる。文のどの部分が主題を明確にしているの		・特定の目的や観点を持った文章を書く際、最も効果的な文の組み立てや構造を考案し、それを実践的に適

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

		響するかを説明できる。		かについて特定できる。		用することができる。
3. 敬語・敬意表現			・様々な場面において、尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使用することができる。正しい敬語を選択し、開いてに敬意を表す適切な表現を用いることができる。	・敬語や敬意表現の文化的、歴史的背景を分析し、その情報をもとに、様々な場面において最も適切な敬語を選択することができる。		・様々な場面において使用された敬語を適切に評価することができる。
4. 小論文（1）	・論理的な論述、主張、根拠、結論など、小論文作成に関連する基本的な語彙や表現、論理展開を正確に想起することができる。	・小論文の目的と特徴を説明でき、その重要性和構成を理解できる。			・小論文が持つ特有のスタイルとその目的を他の文章形式と比較しながら評価することができる。	・新しいテーマや視点から小論文を構想することができる。自分の意見や考えを整理し、理論的かつ創造的なアプローチで小論文を構築することができる。
5. 小論文（2）		・小論文の基本構成（導入部、本論、結論）を識別し、それ		・与えられた小論文の構成について、論旨の進		・説得力のある論旨の進行、展開を考案し、自らの小

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

		<p>それぞれの部分が小論文全体の論旨の進行、展開にどのように寄与するかを理解できる。また、各構成部分の目的と重要性を説明できる。</p>		<p>行、展開が効果的か、そうでないかを分析することができる。</p>		<p>論文に適用することができる。</p>
6. 小論文 (3)		<p>・自分の考えや意見を明確に表現し、論理的に論旨を展開しながら、かつ、わかりやすく書く方法について説明することができる。</p>	<p>・効果的な導入と結びの文を使用することによって、読みやすく、一貫性のある論証の進め方を実践することができる。</p>			<p>・読者の注意をひく書き出しの文と印象的な結びの文を創造し、かつ、語の選択など、全体の調和を取りつつ、自身の論点を強調する小論文を書くことができる。</p>
7. 小論文 (4)			<p>・受け取ったフィードバックを自身の小論文作成に反映し、より説得力のある小論文を書くことができる。</p>	<p>・ピアレビューを通じて、他者の小論文を分析し、その論旨や構成、語の選択について、具体</p>	<p>・他者の小論文の論点や根拠を客観的に評価し、その論旨のよい点と弱点を特定することができる。</p> <p>批判的思考と分析ス</p>	

タキノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキノミー）

				的で建設的なフィードバックを提供することができる。	キルを適用し、有効なフィードバックを提供することができる。	
8. 話してみよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> 過去の経験、成功、学んだ教訓を想起し、それらを自己紹介の中で効果的に紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な例やストーリーを用いて、自分の個性や能力を際立たせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者からのフィードバックをもとに、より効果的な自己アピールの要素や方法を理解し、自身のアピールに応用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の自己紹介を分析し、強みや改善点を特定することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の強み、スキル、経験を効果的にアピールする自己紹介を作成する。自分自身の特徴を明確に理解し、聞き手に魅力的に伝える方法を考案できる。
9. 話してみよう (2)			<ul style="list-style-type: none"> 特定の聞き手や読み手の視点や背景に合わせた自己アピールの方法を考案することができる。自分の強みや経験を効果的に伝える戦略を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の聞き手や読み手のニーズや期待を分析することができる。 		

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

<p>10. 学術的文章の書き方</p>	<p>・過去に学んだ学術的、学術的文章の特徴や書き方のポイントを想起することができる。</p>	<p>・学術的文章と文学的文章の違いを理解し、それぞれの特徴、目的、特有の言い回しを説明することができる。</p>	<p>・小論文、レポート、論文の違いを理解した上で、それぞれの目的に合わせた書き方を選択することができる。</p>			
<p>11. 分析と考察をしよう</p>		<p>・グラフや表について、正確にデータを読み取り、解釈することができる。</p>		<p>・グラフや表を詳細に分析し、データが示す傾向やパターンを指摘することができる。</p>	<p>・分析したデータをもとに、客観的な結論を導き出すことができる。</p>	<p>・分析したデータを活用し、新しい視点や仮説を提案することができる。</p>
<p>12. レポート：論文の書き方 (1) リサーチと情報収集の基礎</p>	<p>・以前に学んだリサーチの方法や情報評価のスキルを想起し、新しいトピックに関するリサーチに適用することができる。</p>		<p>・効果的なリサーチの方法を用いて関連する情報を収集し、トピックに関する最新の研究や文献を調査することができる。</p>		<p>・情報源の信頼性を評価し、得た情報が研究や論文作成に適しているかを判断することができる。</p>	<p>・収集した情報を分析し、主要な論点や議論を抽出して新しい研究テーマや仮説を提案することができる。</p>
<p>13. レポート：論文の書き方 (2) 論点の設定と論証の技術</p>			<p>・複数の情報源やデータを統合し、</p>			<p>・既存の情報や知識をもとに、新し</p>

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

			明確な論点を支持するための強固な論証を構築することができる。			い論点や視点を創出することができる。
14. レポート：論文の書き方 (3) 引用の仕方				・ 種々の情報源から得た情報を分析し、内容を精査したうえで、適切に引用することができる。	・ 得た情報を評価し、信頼できる情報について、自身の論証や議論にどの程度、関連し、寄与するかを評価できる。	
15. レポート：論文の書き方 (4) 総まとめとフィードバック			・ 他者から受け取ったフィードバックをもとに、自らのレポートや論文の論証を見直し、より説得力のある内容に再構築する。		・ 自身や他社のレポートや論文を総合的に評価し、その構造、論拠など、強みと弱点を明確にすることができる。	